

静川遺跡

苫小牧と厚真町にまたがる、厚真台地と呼ばれる丘陵の苫小牧側に位置しています。昭和 57 (1982) 年に縄文時代の環壕としては日本で最大で完全な姿で発掘されました。環壕は東・西・南側の 3 か所に幅 1m の渡り口あって途切れています。環壕を囲むようヒョウタン形に巡っています。

環壕が造られた時期については、環壕が完全に埋まった上に、縄文時代の終わりころに降った樽前山の火山灰が覆っていることから、縄文時代に造られたことは確実です。さらに、環壕の底からは、縄文時代中期末(4,000 年前)に使われていた土器が見つかっています。このことから、環壕が造られたのは縄文時代中期末と考えられます。また、環壕内の住居跡からも同じような土器が出土していることから環壕とほぼ同じころに営まれていたと考えられます。

縄文時代の環壕は全国的にも珍しく、貴重なものです。昭和 62(1987) 年 1 月に国の史跡に指定されました。

お知らせ

苫小牧縄文会 特別講演会

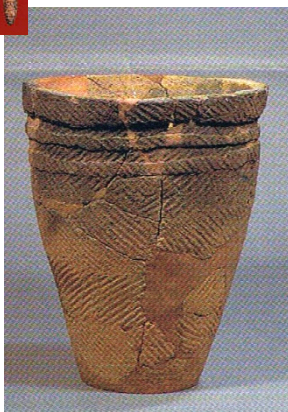
2010 年 10 月 24 日 PM14:30~
於 苫小牧市民活動センター1F
苫小牧市若草町 3-3

国指定史跡 静川遺跡全景



B地区から出た
飾り玉

土器



縄文学習会
毎月第 2 金曜日(8月は休みです)
PM 6:30~9:00
於 西小学校
苫小牧矢代町 3-7-16

今なぜ縄文文化

近代文明の発展により、工業化が進み、人類は限りない幸福を求めてきました。環境破壊による地球の危機、人間精神の荒廃による人間中心の世界観、そして、競争と争い、私たちはこれらの問題を克服できるのでしょうか。

近年研究が進む中で、縄文社会は、豊かで変化しない社会、自然との共生、争いない社会、「きわめて豊かな精神性」をそなえた社会と考えられるようになりました。

縄文文化における自然観は、自然との対立の回避、経済観は、取りすぎの回避、社会観は争いの回避です。このような縄文文化の理解が進む中で、貴重な縄文遺跡を保護・展示し町おこしにしようとする動きが各地で盛んになってきています。

また、伊達・函館市をはじめとする北海道・東北の 4 県、12 市町が「北海道・北東北の縄文遺跡郡」を日本独特の考古学的遺跡として世界遺産登録を目指しています。



苫小牧縄文会

苫小牧縄文会は、「静川遺跡」の存在を通して縄文を知ること、縄文文化や考え方の中に、今、私たちが忘れかけている、人と自然との共生社会を確立した縄文人の心の豊かさ「人間精神」の大切さを学ぶこと、その為に苫小牧の縄文遺跡を市民に周知することです。

また、日本でも極めて貴重な「静川遺跡」に北の縄文を学ぶ場としての、また、貴重な観光資源として「静川遺跡」の活用について考え、さらに、苫小牧の文化の向上と活性化に努め、私達が求める豊かな社会が、じつは祖先が築いた縄文時代にあるのではないかと云うことを伝えることです。

現在 70 余名の会員が毎月の勉強会、縄文遺跡見学会、静川遺跡整備の他に講演会開催と、活動を続けております。

苫小牧美園町 3 丁目 2-14
事務局 高井昌機
TEL 0144-080-5585-1284
Fax 0144-82-8548

苫小牧縄文会
百景 ぼん